

かざね
四万十の風音

しん せん
森&川だより

「滑床溪谷」山開き神事に併せて

森林環境教育を実施（松野西小・松野東小）

「滑床溪谷」は、愛媛森林管理署管内、宇和島市と松野町にまたがる滑床山国有林内にあり、足摺宇和海国立公園の一部となっています。

4月23日、松野町などが主催する山開き神事がありました。新緑が濃さを増す中、両市町の関係者や地元住民ら約40人が夏山シーズンを前に入山者の安全と観光振興を祈念し、溪谷のせせらぎが響く万年橋から、代表児童による体長5～6cmのアマゴ稚魚の放流も行われました。

地元、松野町内2小学校の4年生児童で構成される「森(もり)の国(くに)緑の少年団」の18名も参加しており、神事後、松野町からの依頼を受けた当センターが森林環境教育を実施しました。

○恒例の森林環境教育

今年は、「滑床アウトドアセンター万年荘」で、当センター所長が自作のイラストを使い、森林のはたらきやふれあいセンターの仕事について説明した後、近畿中国森林管理局箕面（みのお）森林ふれあい推進センターから教えてもらった、「松ぼっくりのふくろう作り体験」を、滑床溪谷の自然や森林を感じてもらう取り組みとして行いました。楽しく作ってもらうことができ、かわいいふくろうが出来上がっていました。

なお、当日は、地元ケーブルテレビの取材も来ており、活動の様子も後日南予地域で

放映されました。

当センターでは、この滑床の自然のすばらしさを、地元の児童に森林環境教育を通して引き続き伝えていきます。また、利用者には安全で快適に利用をしてもらえるよう巡視等も続けたいと考えています。

○万年荘はまもなく建て替え

今回使用した万年荘（昭和32年ユースホステルとして開業）は、松野町の話では、経年による老朽化のため、「滑床ビジターセンター」としてまもなく建て替えるとのことで、ここの利用はあと少しになるそうです。



神事等の様子（万年荘内）



万年橋からアマゴの放流の様子



松ぼっくりのふくろう作り体験①



松ぼっくりのふくろう作り体験②



松ぼっくりのふくろう作り体験③



松ぼっくりのふくろう作り体験④

「松ぼっくりのふくろう作り」体験、みほん



楽しく作ろうね。

※高知県西部の入野松原（四万十森林管理署管内の国有林）の黒松の松ぼっくりや手芸用のフェルト、スギ板を使って作りました。

また、松の木は、愛媛県の県木でもあります。

固有種トキワバイカツツジの開花状況調査

(局計画課、ふれセン)

四万十川森林ふれあい推進センターでは、愛媛県南部にのみ自生する固有種トキワバイカツツジの開花状況調査を毎年度満開の時期に行っています。

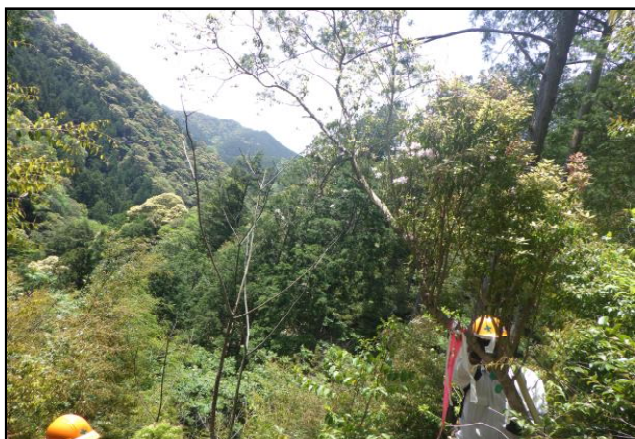
今年度は、4月25日に四国森林管理局計画課と共同で調査を行いました。調査は、あらかじめ定めた標準木の開花数・生長量を記録するものです。

例年、満開日を予測して調査日を設定していますが、今年度はトキワバイカツツジの開花が早く、調査日の直前に荒天に見舞われたため、標準木の花びらが地面へ多く落下した中での調査となりました。

標準木の開花数調査は、地面に落ちている花びらも加味しながら行い、昨年度とほぼ同じくらいの開花数が確認できました。また、標準木の生長について、樹高が昨年度より伸長したものが多く確認できました。

なお、この周辺ではニホンジカによる食害が続いています。当センターでは、平成24年度からシカ剥皮被害防止ネット（単木保護用ラス巻き、以下、ラス巻き）でトキワバイカツツジを単木保護して、定期的な巡視を行っています。令和4年度以降、ラス巻きから出た新芽がニホンジカの食害に遭っていることを確認しており、トキワバイカツツジの生育状況等を注視しているところです。

今後とも、関係者や愛媛森林管理署の協力も得ながら、希少種でもあるトキワバイカツツジの生育環境を維持・保全できるよう、継続的な調査や巡視を実施していきたいと考えています。



固定木調査の様子①



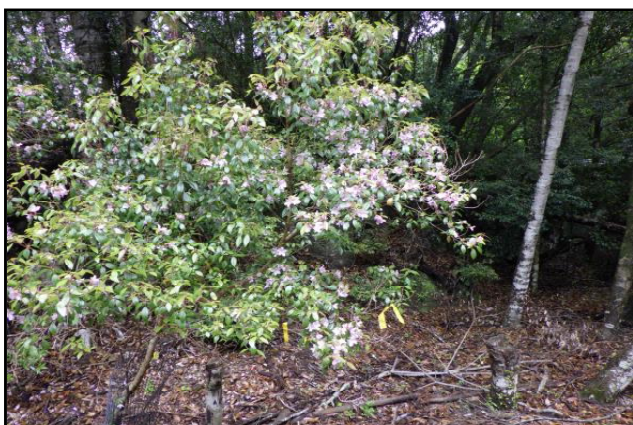
固定木調査の様子②



地面に多く落下していた花びら



可憐な花を咲かせるトキワバイカツツジ①



可憐な花を咲かせるトキワバイカツツジ②



可憐な花を咲かせるトキワバイカツツジ③

「堂ヶ森」登山と「四万十の桧仙人」

(西土佐中学校)

四万十市立西土佐中学校では、令和3年度から、「地域の自然や文化、歴史に興味関心を持つための学習」を行っています。この一環として、5月8日、一年生16名が「堂ヶ森」に登山することになり、当センターも同行して森林環境教育を行いました。

○「堂ヶ森」登山

当日は天候に恵まれ、開会の挨拶後、準備運動をしてから、ネイチャーゲームの「フィールドビンゴ」（からだの五感を使って自然の宝物を探すビンゴゲーム）や「木漏れ日キャッチ」（木漏れ日を、画用紙や手のひらでキャッチして、その瞬間を楽しむゲーム）をしながら登りました。また、ヒノキやユズリハ、アカマツ、ハイノキなどの樹木、リスが齧った松ぼっくりのエビフライ？ イスノキの虫こぶなどの学習も行いました。

ゲームや学習の合間には、遠くに見える鬼ヶ城山系おにがじょうの山脈やまなみや西土佐で一番高い山「横の森（標高1、200m）」を眺めつつ、標高が増すに連れてアカガシ、ヤブツバキ等の照葉樹林しょうようじゅりん（常緑広葉樹）、モミ、ツガ等の針葉樹林、イヌシデ、ウリハダカエデ等の落葉広葉樹林と移り変わる四万十川流域の貴重な天然林の様子をつぶさに観察できました。

○「四万十の桧仙人」

約1時間、木々の新緑のシャワーを浴びながらアカショウビンの「ヒュルルルル～♪」との鳴き声も楽しみ、江戸時代から約300年という時を経て現存する胸高直径1m以上の天然ヒノキの群生地(四万十市と四万十森林管理署が「西土佐藤ノ川ヒノキ仙人の森」協定を締結)の中でもひと際目立つ、林野庁の「森の巨人たち百選」※に選ばれた「四

万十の檜仙人」に到着しました。

「四万十の檜仙人」を目の当りにした生徒達は、「木がでかい！」と凄く驚き、全員が「四万十の檜仙人」にタッチして大木のパワーに触れました。

ちなみに、四万十市西土佐地域のヒノキは「幡多ヒノキ」のブランドでも知られ、製材すると綺麗な木目がでるのが特徴です。

○帰り道

復路は、天然ヒノキの群生地の中の登山道を下り、約1時間で下山しました。

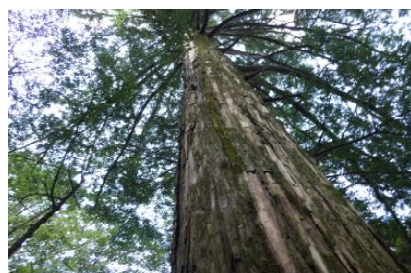
駐車場で昼食をとった後、生徒全員が円陣を組み、「ミツバチ!!」と大きな掛け声（担任教諭によると生徒達でこの掛け声=学級目標を考えたとのこと。）で気合いを入れた後、駐車場付近のゴミ拾いをさせていただきました。また、バスで帰る途中には、杖ヶ尾林道沿いの森林軌道の遺構を見学することもできました。

生徒の代表から、「山のこと、自然のこと、木のことなど、今回の登山を通して新しい発見があって、とても良い経験になりました。ありがとうございました。」とお礼の挨拶があり、無事に登山を終了することができました。

当センターとしても学校の要請に応えることができ良い一日でした。

※「森の巨人たち百選」

林野庁では、次世代への財産として健全な形で残していくべき巨樹・巨木を中心とした森林生態系に着目し、代表的な巨樹・巨木を「森の巨人たち百選」として選定しています。





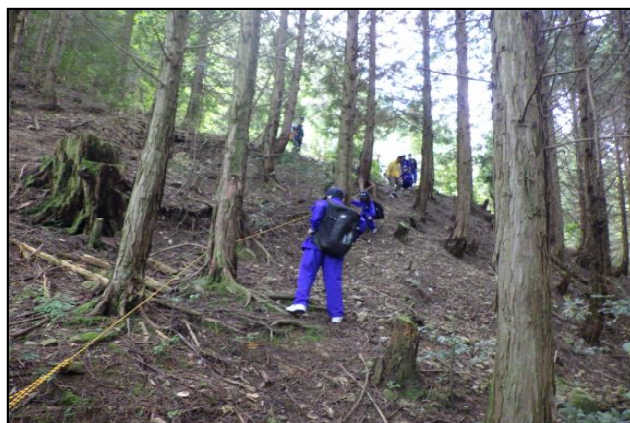
駐車場で開会式の様子



新緑のシャワーを浴びながら登山の様子



登山道沿いの山椒の木の特徴を説明



スリル満点、アドベンチャーな下り道



森の巨人たちの看板前で集合写真



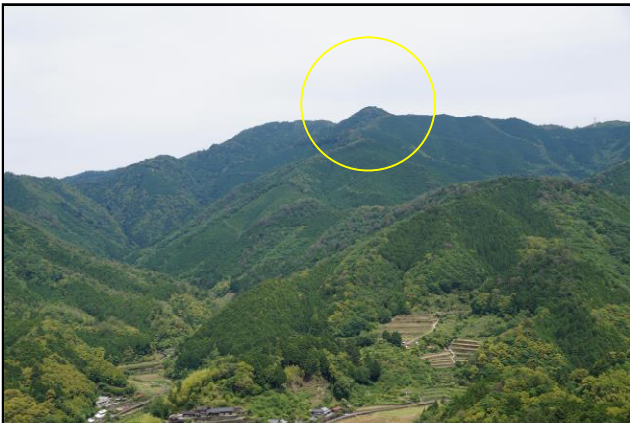
「四万十の桧仙人」にタッチ①



「四万十の桧仙人」にタッチ②



森林鉄道遺構の見学の様子



西土佐藤ノ川から「堂ヶ森」を望む



「堂ヶ森」と天然ヒノキの群生地（白線内）

ドローン講習会 IN 西ヶ方を開催



4月24日、四万十森林管理署の野村森林技術専門官を講師に、ドローン操作技術の向上を目指した講習会を、旧西ヶ方小学校の校庭で開催しました。



ドローン講習会 I N 西ヶ方の様子①



ドローン講習会 I N 西ヶ方の様子②

梶原町太郎川公園フェスティバル（イベント）に向けて、四万十森林管理署職員が準備作業の為、当センターに来訪

5月26日実施の、梶原令和の森林づくり協議会が主催する森林フェスティバル I N 太郎川公園（イベント）に、四万十森林管理署が若手職員を中心に「木製キーホルダー作り」等で、昨年度に引き続き参加することとなり、その準備作業を当センターで行うため、5月15日と5月17日の両日、合わせて12名の職員が来訪しました。

両日共、はじめに当センター職員が、通達の「電動工具使用時の注意事項」を説明し、その後、卓上糸鋸盤などの使用方法等について指導してから、それぞれが準備に取り掛かりました。



電動工具使用時の注意事項を説明



準備作業の様子①



板に下絵を複写して描いているところ



準備作業の様子②



準備作業の様子③



協力して作ったキット約 200 枚

南予森林アカデミー研修生、自然再生の取り組みについて学ぶ

5月21日、南予森林アカデミー研修生4名を対象に、「滑床山自然再生事業の取り組みについての講習と作業体験研修」を実施しました。

この研修は、（一社）南予森林管理推進センターから、国有林で取り組んでいる自然再生事業などを題材に現地研修を受けたいと依頼があったもので、同センター職員3名も同行され、当地の現状について理解を深めていただきました。

鹿のコル駐車場において、ふれあい推進センター所長からの挨拶の後、配布資料を元に、鬼ヶ城山系の自然環境や植生分布について説明しました、また、三本杭山頂周辺ではシカ食害によりミヤコザサが消滅し、表土の流失から山腹崩壊を招く状況となっていたこと、当時のふれあい推進センターが山頂周囲にシカ防護柵を設置したこと、NPO団体やボランティア等の参加協力により移植されたミヤコザサが回復・繁茂し、さらにオンツツジやアセビなどの群落も復活したことを説明しました。

○滑床山国有林

その後、八面山登山口から三本杭へ向け登山を開始し、登山道沿いにある特徴的な樹木について、当ふれあい推進センター職員が現地の樹木名板を示しつつ、名前の由来や特性などを詳しく説明しながら山頂を目指しました。

当日は好天に恵まれ、眼下に広がる造林地や天然林の山々を見下ろすことができ、さらにキラキラと輝く宇和海の向こうに九州地方の峰々を望むこともできる絶好の登山日和となりました。

そして、約30分で滑床山国有林のブナ原生林に到着しました。当地はブナを主体と

した広葉樹林分で登山者にも人気ですが、樹木の幹部と根元の樹皮や下層植物がシカ食害を受けて衰退し、林地荒廃に繋がる恐れがある場所です。このため、登山道沿いを主体として、平成18年からシカ防護柵を計17箇所、総延長5,620m設置してきたこと、柵の内側と外側で植物の繁茂状況に違いがみられるなどの効果があることや、一方で、ブナやカエデ類の高木が枯れて倒れシカ防護柵が損壊し、再び食害の影響を受けるため、定期的な点検が重要であることを説明し理解してもらいました。

さらに、ブナ原生林のなかを歩き、標高による植生変化の状況も確認しながらようやく三本杭山頂へ到着すると、石鎚山を遠望できるほどの好条件だったこともあり、初めて訪れたという研修生の皆さんは360度の大自然に感銘している様子でした。

○シカ防護柵点検作業

昼食後は登山道（復路）を下りながら2班に分かれてシカ防護柵の点検と補修作業の実習に取り組んでももらいました。点検を開始し、登山道から離れ、シカ防護柵に沿って約50m移動した地点で早速、枯損した倒木による倒壊箇所を発見し、作業手順を確認した後、倒木や溜まった落ち葉を除去し、防護柵を再建する修繕作業を行いました。その後も点検を続けながら下山し、倒木による広範囲の損壊箇所を発見しましたが、実習予定時間内に修繕を終えることが困難と判断し、やむを得ず現地表示と図面上にマーキングし下山することとしました。研修生には、こうした地道な作業が植生を保護し、自然環境の維持と国土保全にもつながることを理解してもらえたと思います。

登山口まで下山した後、愛媛森林管理署が管理している囲いわな設置箇所へ移動し、国有林でもシカ捕獲事業にも取り組んでいることを説明し、現地研修の締めとして南予森林管理推進センター研修教務課長から御礼の挨拶を受け、今回の研修も無事終了となりました。

当ふれあい推進センターでは、自然再生事業の取り組みとともに、各小中学校を対象とした森林環境教育や林業関係機関への支援等も引き続き実施してまいります。



ブナ林の植生状況を確認



三本杭山頂からの眺望



枯損木により倒壊したシカ防護柵



南予森林管理センター門田課長の挨拶



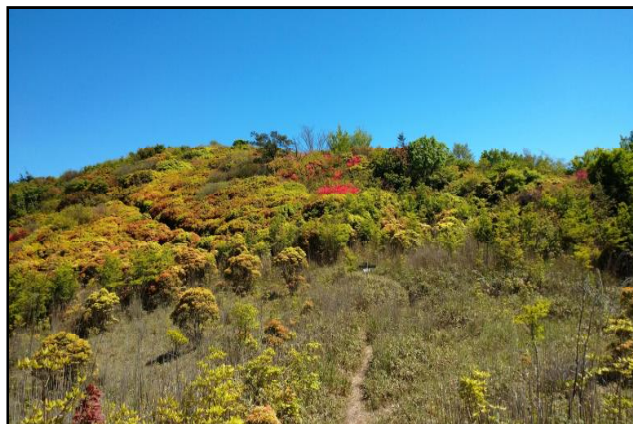
滑床溪谷と三本杭スケッチ



滑床溪谷駐車場で満開のコブシ（4月）



万年橋から見た滑床溪谷（4月）



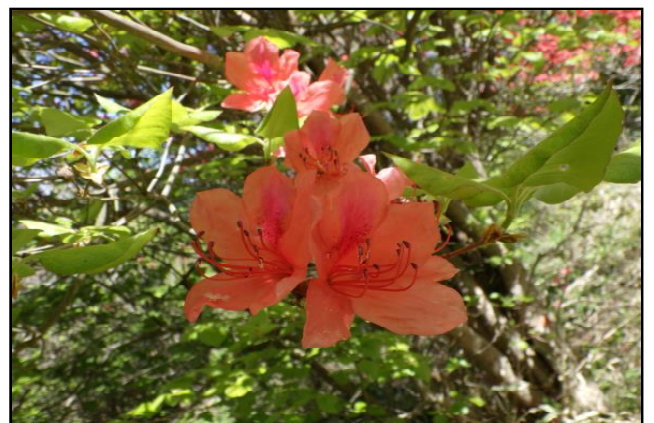
三本杭、たるみ付近（5月）



三本杭（5月）



滑床山、ブナアオシャチホコの幼虫（5月）

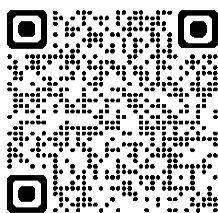


滑床山、色鮮やかなオンツツジ（5月）

真夏だねえ～ もうすぐ楽しい夏休み



ふれセン、ホームページ



農林水産省 四国森林管理局

四万十川森林ふれあい推進センター

所在地：〒787-1602 高知県四万十市西土佐西ヶ方 586-2

ダイヤルイン：0880-31-6030

メールアドレス：shikoku_fureai@maff.go.jp



国民の森林・国有林